

令和2年度 学校経営方針

墨田区立文花中学校長 稲垣 吉実

今年度の学校経営目標

『チーム文花中として、文武両道を目指し

自分に誇りの持てる生徒、生徒の誇れる学校』づくり

1 教育目標・育てたい生徒像、目指す学校像

【教育目標】

- 豊かな心をそなえ、自ら学び・考え、健康で安全な生活を営み、たくましく生きる生徒を育成する。 知（智）・徳・体をバランス良く育てる。

（1）育てたい生徒像

- ・ 毎日の授業を大切にし、自ら計画し、学び、進んで実行する生徒
- ・ 人権を尊重し、互いに協力しあい、自他を大切にする生徒
- ・ 規範意識を身につけ、責任を果たし、社会に貢献できる生徒
- ・ 文武両道の精神を持ち、心身共に健康で何事にも粘り強く取り組む生徒



自分に誇りと自信を持って、チームワークを大切にし、粘り強く行動できる生徒の育成

「自分に誇り（自信）を持つ生徒は、チームワークを大切にし、いじめをしない。
自信（誇り）を持つ生徒は、途中であきらめず最後まで自分を伸張する。」

指導の原理：ほめて育てる、自信を育てる。

「学ぶことは変わること」「教えることは変えること」

（2）目指す学校像

教師の使命は、「生徒が通いたくなる学校、誇れる学校」

「保護者が子どもを通わせたい学校、通わせていることを誇りに思う学校」、

「地域に信頼される学校、地域が誇りに思う学校」を組織として一丸となって築くこと。

学校教育を取り巻く状況は刻々と様変わりし、解決すべき課題も山積している。変化や課題に適切に対応しつつ、以下の「目指す学校像」の実現に向けて最善を尽くす。

- ① 「わかる」「楽しい」「できる」が実感でき、生徒の意欲を育む学校
- ② チーム文花中として学校・家庭・地域が一つになって共に歩む学校
- ③ ICT機器やデジタル教材などを効果的に活用したICT教育を推進する学校
- ④ 人権尊重、異文化理解を積極的に推進する学校（夜間学級等との交流）



生徒の誇れる学校づくり

学力を向上させる源は、基本的な生活習慣の確立と原初的な意欲の向上です。基本的な生活習慣の確立のためには、家庭や地域と連携しつつ、一人一人の生徒に対してきめ細やかな指導を行い、意欲の向上には自己実現のできる多様で豊かな体験をさせることが必要である。全校体制で「自主的な学習意欲の育成」に取り組む。

教職員に求められていることは、不易と流行を見据えつつ、新しいことに挑戦する柔軟な発想を持ち、本校の実態に即した教育改革を推進することである。

保護者や地域の方々、そして、子どもたちの教育に関わる様々な方の協力をいただき、教育課題に積極的に取り組む。

- (1) 「わかる」「楽しい」「できる」が実感でき、生徒の学習意欲を育む授業の実現
- (2) 基本的な生活習慣の定着、「あいさつ、時間、身だしなみ」を中心とした生活指導の充実
- (3) **教育相談活動を重視し、「相談しやすい環境作り」を行い生徒の異変を素早く察知する。**
- (4) 特色ある学校づくりの推進
(地域行事への参加、ICT機器等を活用した授業改善、地域や社会人材を積極的に活用したキャリア教育、異文化理解のための夜間学級との交流の充実)
- (5) 地域に貢献できる中学生の育成(文中ジュニアレスキュー、3年間の防災安全教育)

(1) 組織的な活動を通しての学校づくり

- ① 一人一人の教員が積極的に経営参加意識を持つことによって、担当者、主任、主幹、副校長、校長が「報告、連絡、相談(指示・指導)」でつながるラインの強化を図る。さらに、それぞれが分担を果たす中、互いに補完し合える体制を整え、組織体としての力量を高める。**(分掌組織の明確化)(OJTの推進)**
- ② 教職員相互の意思の疎通を図り、重要度・優先順位・指導方法等、共通理解を持って指導・実践を行う。
- ③ 教育目標達成のため、より計画的な学校運営に努め、質の高い実践を行う。

(2) 分かる授業・確かな学力を育む授業づくり

- ① 「授業で勝負！」を合言葉に、生徒をしっかりと見つめ、専門性を発揮し、創造的な授業を展開する。綿密な授業・評価計画に基づき、明確な授業プランによる、生徒にとって分かりやすい授業(主体的・対話的で深い学び)の実践を行う。
- ② たえず生徒理解に努め、一人一人を生かす指導を心がけるとともに、基礎・基本の徹底を図る。**(家庭学習の習慣化、放課後学習教室の計画的な実施)**
- ③ **個に応じた、きめ細かい指導の充実**を図るため、数学・英語において少人数指導を行う。
- ④ 個性を尊重し、認め励ます「ほめて育てる、自信を育てる」指導を通して、さらに「できた」という達成感を充実させる工夫を通して、**生徒の自己肯定感を育てる。**
- ⑤ 授業力(授業構成力、教材開発力、指導技術、集団統率力、使命感、情熱、感性)の向上を目指し、授業公開を積極的に行うとともに、校内研修の充実を図る。
- ⑥ 指導教諭の授業を積極的に参観し、互いの授業を参観することで、授業改善に努める。
- ⑦ 常に授業改善に取り組み、生徒の学びたいという意欲を引き出すために、授業改善のツールとして、電子黒板やタブレットPCを積極的に活用する。
- ⑧ 情報モラル等の教育の推進を図るとともに、高度情報化社会に生きる生徒の育成を目指し、電子黒板や様々な情報機器を活用したICT(Information and Communication Technology—情報通信技術)教育の推進を図る。
- ⑨ 「総合的な学習の時間」は、「いのち」「生き方」「読み取る力」を共通のテーマとして、「生命尊重の精神」「思いやりの心」「思考力・判断力」「読解力」「望ましい勤労観・職業観」の資質・能力を育てる。
- ⑩ 年2回の生徒の「授業アンケート」を活用し、授業改善を図る。
- ⑪ 東京2020オリンピック・パラリンピック教育の推進を図る。
- ⑫ がん教育、租税教室等の教育の推進を図る。

(3) 基本的な生活習慣の定着と豊かな人間関係を育成する生活指導

- ① すべての教育活動を通して、偏見や差別をなくし、自他の生命、人権を尊重する教育を推進する。
- ② 教師が率先垂範することにより、挨拶や身だしなみ、時間や約束を守る指導を充実し、公私の区別や責任、ルールの遵守についても理解・実践できる生徒の育成を図る。
- ③ 教育相談を通して、生徒一人一人の心のケアの充実を図る。スクールカウンセラーや外部相談機関との連携や活用を図る。
- ④ 教職員が生徒への関わりを大切にし、一人一人の生徒の変化に気づく感性を高める。
- ⑤ 問題行動へは、早期対応・早期指導を全教職員がそれぞれの持ち味を生かし、共同歩調で当たる。
- ⑥ 保護者・地域・関係諸機関との連携を密にし、協力して指導にあたる。

(4) 互いを認め、尊重し合う学級づくり

- ① 学年・学級は学校教育活動の母体である。学年・学級経営が学校の教育活動の成否の鍵をにぎっていることを自覚し、**組織として経営**にあたる。
- ② いじめをなくし、一人一人を生かし、伸ばしていくためには学級に明るく、**お互いを認める雰囲気**と規律がなければならない。そのためには、教師自身の温かさ、適切な指導と管理が必要である。たくさんの関わり、素晴らしい関わりを生徒は求めている。教師が積極的に生徒一人一人の良さを見つけ・認め・励まし・伸ばす指導に努める。
- ③ **常に目標を持ち、夢や希望を膨らませ、生き方を学ぶ3年間を見通した進路指導**を実践する。(キャリア教育の推進)

(5) 自主的な活動の促進と感動ある学校行事の創造

- ① 生徒会活動及び部活動をはじめとして、自治的な活動を推進し、自主性や主体性を育成する中で、誇れる自分づくりを推進する。
- ② 「運動会」「文化祭」をはじめとする学校行事の充実を図り、所属感、連帯感を育み、文中生としての誇りを持たせる。
- ③ 夜間学級の生徒との交流等の異文化理解教育の充実を図り、国際理解教育を推進する。

(6) 良い環境で豊かな心を育てる学校づくり (教師の率先垂範：後ろ姿で育てる指導)

- ① 学校での生徒の安全を第一に考え、安全教育の徹底を図る。
- ② 「**環境が人をつくる。その環境は人がつくる。**」という認識の下、物的環境、人的環境づくり(言語環境の整備：教師の言葉遣いからさん・君付け)に努める。
- ③ 心の教育を重視し、道徳の時間をはじめとするあらゆる教育活動を通して、心を育てる指導に努める。
- ④ 校舎内外の美化・整備に師弟同行であたる。(1日の始まりを気持ちよく)
- ⑤ 明るい挨拶、正しい言葉を励行する。
- ⑥ 勤労と奉仕の心を育てる。
- ⑦ 道徳授業地区公開講座の充実を図り、保護者・地域住民とともに生徒の道徳心の向上を目指す。

(7) 保護者・地域に開かれた学校づくり

- ① 家庭・地域との連携を図り、信頼関係を深め、共同歩調で生徒を指導する学校を目指す。
- ② 学校の教育活動を保護者・地域に広く公開し、協力を得る。(学校配信メール・HP等)
- ③ 地域社会や企業・大学で活躍している方を積極的に学校に招き、学校教育の活性化と指導法の充実を図る。
- ④ 「地域ふれあい祭り」「地域音楽祭」等、育成委員会主催の行事に積極的に関わり、その一翼を担う。
- ⑤ 学校運営連絡協議会を活用し、地域との連携を図る。
- ⑥ 「学校評価」を活用し学校教育の充実・改善を図る。

(8) 教員の資質・能力の向上と組織機能の強化

- ① 常に教える「プロ」として、授業力・生徒理解力・危機管理能力等、自らの資質・能力の向上に努める。
- ② ICTを活用した授業研究等、生徒の意欲・関心を引きだし、**来年度からの新学習指導要領**に向けた校内研修を計画・実践する。
- ③ キャリアプランによる計画的な研修への参加を推進する。
- ④ 公務員としての服務を守り、尊敬される教職員を目指す。(率先垂範)
- ⑤ 働き方改革を視野に入れ、組織で効率よく仕事を行うように努める。(会議は1時間)

(9) 文花中ブロック幼保小中一貫教育の一層の推進

- ① 幼保小中一貫教育担当者会を中心に15年間の教育内容を理解し、一貫性・連続性のある教育を地域の協力も得て、組織的に取り組む。
- ② 園・小・中の学校間の交流を積極的に行い、**ガイダンスの機能の充実**を図る。
- ③ 生徒会を軸とした**相互に取り組む行事**を設け、児童・生徒間の交流を発展させる。